

気軽に読むサイエンスの話題⑱

中国延辺大学の糖尿病の先生による栄養部訪問と 講演会がおこなわれました

中国延辺大学付属病院の糖尿病内科、部長 朴 蓮善先生と准教授 金 文龍先生が厚生労働科学の共同研究で来日され、9月29日と30日の両日、佐倉病院を訪問され、施設見学と研究の打ち合わせが行われました。栄養部では、鮫田 真理子室長から当院の給食システムと患者指導について現場を見学しながら詳しい説明を受け、30日夕方には、東棟7階講堂で医学研究部と教育委員会の主催による講演会が行われました。長尾建樹院長先生による歓迎のご挨拶に始まり、龍野一郎先生座長のもとで、朴先生と金先生による「中国延辺の生活と糖尿病の実態・診療」をテーマに記念講演が行われました。

延辺大学は中国東北部吉林省にある主要大学の一つで、延辺大学付属病院はベッド数が1500ほどの地域中核施設です。この地域は朝鮮族による自治州であることが特徴です。中国の糖尿病患者数は30年前に比べて20倍増え糖尿病患者数が世界一になったとともに、糖尿病発病率もアジアで一番高いとのことでした。その背景に、経済の発展による食事の変化と運動不足があり、延辺在住の朝鮮族の方々においても糖尿病が大きな医療問題であり、コントロールが充分でない患者さんが半数以上とのことでした。診療の問題として、病院の給食システムが整備されて無く、糖尿病患者さんの食事療法が普及していないことがあり、今回、当院の食事療法を見学にこられました。講演会後の懇親会では参加者皆さんと親善を深めて、地域の食文化を紹介しながら楽しく語り合い交流を深め、翌日には、京都大学医学部付属病院栄養部への訪問に向かわれました。佐倉の食事療法の実際が朴先生と金先生により延辺で紹介され、中国の患者さんの治療にお役に立つものと期待されます。

文責 医学研究部 姜 美子
武城 英明



左から東丸教授、武城教授、朴先生、金先生、
長尾院長、龍野教授、蛭田副院長